



環境報告書
2020



新しいSMKに向けて変化にチャレンジ

2020年は東京オリンピック・パラリンピックの開催で歓喜に包まれる年となるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症により世界は大きく変容し、苦境の中にあります。しかし、感染症の拡大は私たちから日常を奪った半面、新しい生活様式が急速に普及しました。これらを後戻りさせずに推し進め、より良い社会を築くためのチャレンジが始まります。地球環境では、世界経済活動の停滞により温室効果ガスが急減しているとのレポートがありますが、経済活動の再開で再び増加に転ずるのは必至です。私たちの目指す復興は、経済と環境保全のバランスを見失わずに温暖化対策を伴ったものでなければなりません。

地球温暖化防止では、EUが温室効果ガス削減目標の引き上げを表明しました。日本でもエネルギー基本計画の見直しが始まり、低効率石炭出力発電の廃止や洋上風力発電などの再生可能エネルギーの拡大が検討される予定です。エネルギーの使用においては、IoTや人工知能 AIの活用が多くのポテンシャルを秘めています。これを新しいビジネスに繋げるためには、今までのやり方にとらわれず新しいことにチャレンジすることが必要です。

プラスチックは、感染症対策で衛生面での長所を再認識することになりましたが、引き続き無駄な使用は控えるべきですし、廃棄時の処理も重要です。廃棄物管理は全ての環境保全活動の礎であり、資源の有効利用 (3R:Reduce, Reuse, Recycleの推進)はもちろんのこと、社会の持続的発展にこれまで以上に責任を持ち、取り組んでまいります。

SMKグループは「Challenge Creativity Solutions」をビジョンに掲げています。世界中の課題の解決に挑み、新しい価値を創出し、社会に貢献できる企業として勇往邁進して参る所存です。

2020年10月
代表取締役社長 池田靖光

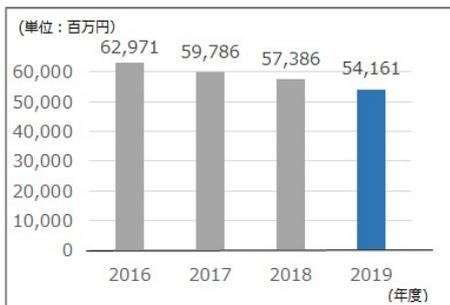
Contents

トップメッセージ	1	マテリアルバランス	4
会社概要	2	省エネルギー・ 省資源への取り組み	5
環境マネジメント	3	環境会計	6
2019年度 環境保全活動総括	4	環境保全活動トピックス	7

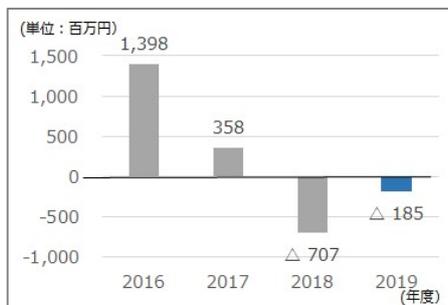
会社概要 (2020年3月31日現在)

商号	SMK株式会社
英文社名	SMK Corporation
創業	1925年（大正14年）4月3日
主な事業	電気、通信および電子機器その他産業機械、情報機器等に使用される各種電子機構部品の製造販売
資本金	7,996百万円
社員数	5,593名（グループ）
本社	〒142-8511東京都品川区戸越6丁目5番5号 TEL. (03) 3785-1111（代表）FAX. (03) 3785-1068 ホームページアドレス https://www.smk.co.jp/
主な製品	高周波同軸コネクタ／FPC対基板コネクタ／基板対基板コネクタ／ジャック／リモコン／スイッチ／ 各種無線モジュール／カメラモジュール／抵抗膜方式タッチパネル／静電容量方式タッチパネル

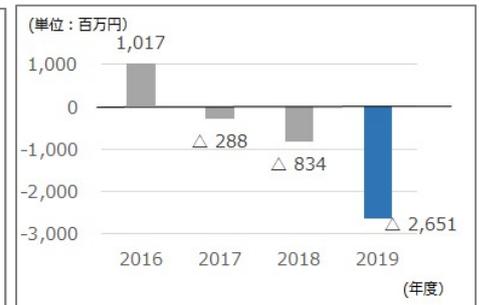
売上高(連結)



経常利益(連結)



当期純利益(連結)



本報告書について

対象期間 2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）

集計範囲 SMK株式会社（国内8拠点）および連結子会社（国内3拠点、海外17拠点）

CO₂換算係数

- ・国内の購入電力のCO₂排出量は、電気事業低炭素社会協議会公表の換算係数を使用しています。
- ・海外の購入電力のCO₂排出量は、2005年度から2011年度排出分はIEA(International Energy Agency)、2012年度以降はDEFRA(Department for Environment Food&Rural Affairs)公表の換算係数を使用しています。
- ・燃料のCO₂排出量は、環境省公表の換算係数を使用しています。
- ・CO₂換算係数の更新により、過去年度の実績を修正しています。

企業情報の入手方法 会社案内、IR情報、製品紹介、過去の環境報告書はSMKホームページで公開しています。
<https://www.smk.co.jp/>

環境マネジメント

SMKグループ環境憲章

1. 基本理念

SMKは良き企業市民として社員一人ひとりが地球規模で持続的発展が可能な社会に寄与するという自覚を持ち、総合的な高度技術により経済発展と環境保全の両立に努めます。

2. 行動指針

- (1) 環境にやさしい製品の開発をします。
- (2) 物を大切に、廃棄物を減少させます。
- (3) 資源を大切に、エネルギーを節約します。
- (4) 3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進します。
- (5) 無駄のない購入・生産をします。

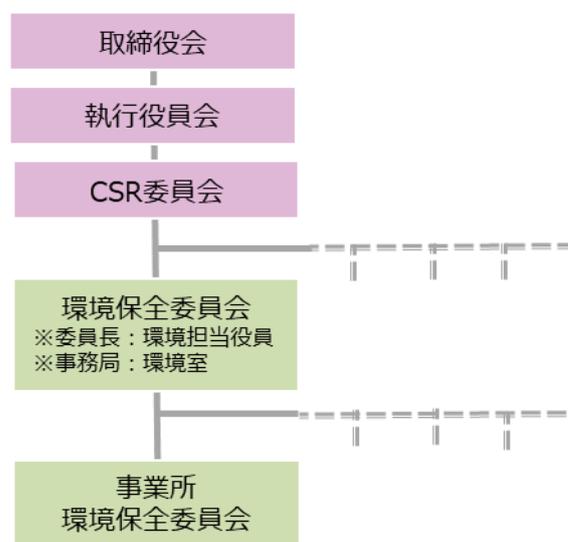
環境保全推進体制

SMKの環境保全に関するグループの方針、目標、施策は環境担当役員を委員長とする「環境保全委員会」と、重要事項については執行役員会で審議、決定し、国内外の事業所に展開されます。各事業所ではグループの方針、目標、施策を受け、さらに固有の課題も取り入れて「事業所環境保全委員会」で事業所の方針、目標、施策を定めて活動を行っています。

環境マネジメントシステム

SMKは国内・海外の全生産事業所で、ISO14001国際規格に基づく環境マネジメントシステムを構築しています。2007年度からは、各拠点での活動に加え、全グループ共通の目標、テーマを設定して拠点間のつながりを強化し、グループ全体のシステムの高度化を図ってきました。また、環境保全活動はグループ内にとどまらず、2004年に初版を発行したグリーン調達ガイドラインでは、協力会社様にも活動推進をお願いしています。具体的には、SMKが禁止する環境負荷物質の不使用をお約束いただくとともに、ISO14001に基づく体制の構築をお願いしています。ISO14001の認証を取得されていない協力会社様に対しては、環境保全活動の実施状況を訪問して確認し、改善指導を行っています。

環境保全組織



廃棄物法規制研修（本社）

2019年度環境保全活動総括

地球温暖化防止

CO₂総排出量は増加見込みでしたが、省エネ改善を推進したことで前年度より削減しました。
生産高CO₂原単位は目標を達成することができませんでした。

生物多様性保全

近隣の小学生を対象とした環境学習講座で、環境保全と生物多様性との繋がりを、重要性を説明しました。

資源の有効活用

製造工程における“ムダ取り”活動を推進した結果、廃棄物総排出量は減少し目標を達成しました。
生産高廃棄物原単位は前年度並みの実績でした。

埋立処分量は、海外にて廃棄物のリサイクル業者を新規開拓したことで大幅に削減できましたが、目標達成には至りませんでした。

環境関連物質管理の確実な対応

環境関連物質管理システムに新機能を追加し、充実化を図りました。

環境配慮設計の強化

製品アセスメントとエコ商品の統合に向け、再構築したエコ商品新管理システムの試行運用、検証を行いました。2020年度は統合方針に則り、より具体的な活動を進めます。

自己評価：○目標達成 △不十分 ×目標未達成

取り組み項目	2019年度		自己評価
	目標	実績	
地球温暖化防止	生産高CO ₂ 原単位*1 前年度比100% 目標：0.64t - CO ₂ /百万円	3%増加 0.66t- CO ₂ /百万円	×
	CO ₂ 総排出量 前年度比3%増加 見込み：34,792t- CO ₂	2%削減 33,297t- CO ₂	○
生物多様性保全	生物多様性保全の普及啓発	環境学習講座を実施	○
資源の有効活用	生産高廃棄物原単位*2 前年度比4%削減 目標：0.023t/百万円	前年度比100% 0.024t/百万円	×
	廃棄物総排出量を前年度比4%削減 目標：1,242t	8%削減 1,194t	○
	埋立処分量を前年度比48%削減 目標：88t	39%削減 103t	△
環境関連物質管理の確実な対応	部材構成情報登録・EU-REACH規則対応システムの効率運用	管理システムに新機能を追加して、物質情報の充実化を図った	○
環境配慮設計の強化	製品アセスメントのレベルアップ	エコ商品新管理システムの試行運用、検証を実施	△

*1:生産高CO₂原単位=CO₂排出量/生産高 *2:生産高廃棄物原単位=廃棄物排出量/生産高

マテリアルバランス

SMKでは製品の設計・開発、製造、販売などグループ全体の各プロセスにおける環境負荷量のマテリアルバランスを把握・解析し、低減化に努めています。



省エネルギー・省資源への取り組み

SMKでは、地球温暖化防止を重要な経営課題として、エネルギー効率の改善を図っています。

また、廃棄物量の抑制やゼロエミッション化（廃棄物埋立処分量ゼロ）に取り組む、資源の有効活用を目指します。

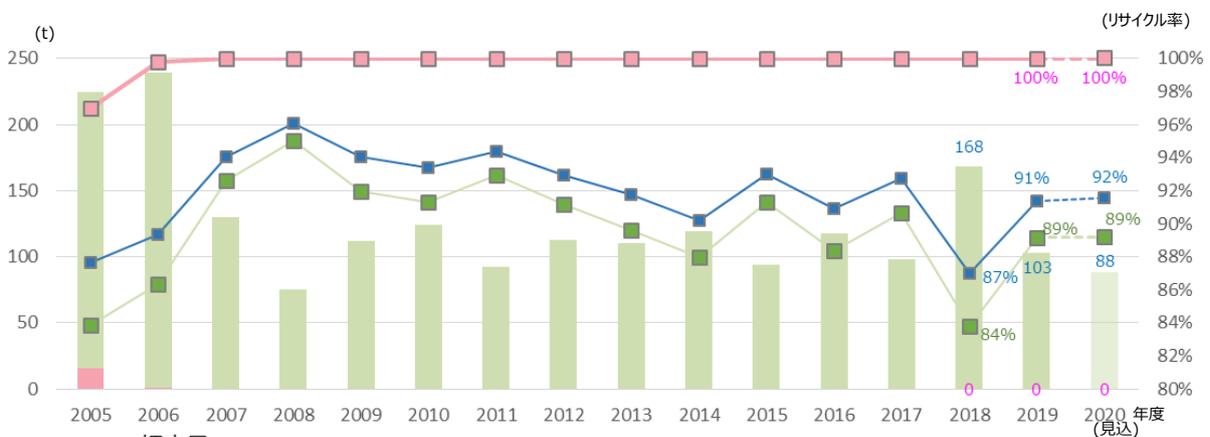
CO2排出量



廃棄物排出量



埋立処分量とリサイクル率



環境会計

環境保全コストと効果

金額単位：百万円

コスト分類	主な取り組み内容	環境保全コスト				経済効果		環境保全効果（物量）		
		投資額		費用額		金額	前年度比	削減量	前年度比	
		金額	前年度比	金額	前年度比					
事業エリア内コスト	公害防止	0	-	39.7	120%	0	-	環境負荷物質 使用量 27.5t	-	
	地球環境保全	14.1	82%	42.6	92%	22.4	88%	生産高CO ₂ 原単位 ▲0.022t-CO ₂ /百万円	56%	
	資源循環	0	-	27.4	109%	143.3	84%	埋立処分量65t 生産高廃棄物原単位 0.0006t/百万円	- 100%	
	小計	-	-	14.1	16%	109.8	105%	165.7	85%	-
上・下流	グリーン購入の推進 等	0	-	0.3	73%	0	-	-	-	
管理活動	蛍光X線分析装置の更新、製品への環境負荷物質非含有保証活動、環境マネジメントの推進 等	2.1	-	169.4	96%	0	-	-	-	
研究開発	EC製品開発の推進 等	0	-	10.4	57%	0	-	-	-	
社会活動	地域および事業所内緑化活動 等	0	-	7.3	75%	0	-	-	-	
環境損傷	-	0	-	0	-	0	-	-	-	
合計	-	16.2	18%	297.2	96%	165.7	85%	-	-	

◎環境保全コストについて：

2019年度の環境保全コストは、前年度に対し投資は大幅減少、費用も若干減少となりました。
投資が大きく減った理由は、前年度に行った排煙装置等の公害防止施設への投資が、2019年度は無かったからです。

◎経済効果について：

2019年度の経済効果は、前年度に対し減少となりました。
これは廃棄物の売却益と、生産設備のリユースによる効果が減ったことが主な原因です。

◎環境保全効果（物量削減）について

環境保全効果は、改善活動を推進した結果、生産高CO₂原単位は悪化しましたが、それ以外の環境負荷物質使用量、廃棄物埋立処分量および生産高廃棄物原単位は改善できました。

太陽光発電実績

SMKおよび子会社が所有する太陽光発電システムによる2019年度の発電量は128万kWhでした。
CO₂削減効果は405t-CO₂です。



▲茨城県

▼群馬県



▲ฟูリピン工場

環境活動トピックス

資源の有効活用

廃棄パレットで製作したスクールチェアの寄付

使用済の木製パレットで社内製作したスクールチェアを寄付する活動を続けています。

2019年度は地域の託児所と小学校へ、100脚のスクールチェアを寄付しました。また、小学校ではごみの分別についてのプレゼンテーションを実施しました。

フィリピン
工場



中国
東莞工場

環境コミュニケーション

工場見学会

2019年9月、従業員のご家族を対象とした工場見学会を実施しました。

環境保護の大切さを伝えるカリキュラムでは、質問コーナーやゲームを取り入れ、お子様たちと楽しい時間を過ごしました。



SMK環境活動の紹介とものづくり教室開催

2019年8月、品川区環境情報活動センター様との共催で、体験型環境学習講座「環境保全活動の紹介とものづくり教室」を開催しました。子供たちに、「環境保全の大切さ」と「ものづくりの楽しさ」を伝えるプログラムで、毎年夏に開催しています。今回は、地域の小学生19名とご家族にご参加いただきました。

本社



環境活動トピックス

環境コミュニケーション

植栽ボランティア（品川区）

しながわCSR推進協議会の会員として、「しながわ花海道」の種まきに参加しました。

「しながわ花海道」はNPO法人が維持管理を行っているプロジェクトで、勝島運河護岸の約2kmに菜の花やコスモスの花を育て、自然豊かで調和のとれた社会づくりに貢献しています。



生物多様性保全・清掃活動

野生生物保護地区の保全活動

地域の野生生物保護区で草刈りのボランティア活動を行いました。

活動中は、野生の七面鳥、蝶、鳥などに会い、楽しくやりがいのある体験となりました。

清掃活動

SMKグループでは、積極的に地域の清掃活動に取り組んでいます。

